

成熟したシビルエンジニアの活性化に向けた取り組み

大成建設(株) 正会員 ○加藤 隆
国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所 正会員 荒谷 太郎

1. はじめに

我が国では、少子・高齢化及び人口減少が進行中であり、高齢化率は27.3%（2016年現在）となり、先進諸国の中では最も高水準で推移している¹⁾。また、団塊の世代の高齢化に伴い、生産年齢人口が大幅に減少することが見込まれる。そこで、(公社)土木学会では、2007年より教育企画・人材育成委員会の中に、「成熟したシビルエンジニア活性化小委員会（以下、当小委員会）」を組織し、土木界における生産力の減少、技術の継承の不調、雇用の継続(必要性・方法とコスト負担)に焦点をあて、成熟したシビルエンジニアの活性化について調査研究を行っている。本稿では、その活動内容について紹介する。

2. 小委員会の成り立ち及び活動について

当小委員会は、2007年度より活動を開始し、これまでに、①シニア技術者が定年退職後にも活躍できる場を提供するために、NPO法人などでの活躍の場を提供するような方策の検討、②現役世代の技術者が、定年退職してから活躍できるように必要なスキル等の研究、③企業や組織に属するシビルエンジニアの定年退職後の実態把握ならびに意向調査を中心に活動してきた。①については、本小委員会から独立して、「シビルNPO推進小委員会」として活動中である。②については、定年退職後のシビルエンジニアへのインタビュー活動、③については、シビルエンジニアの定年退職後の雇用及び活動に関する実態・意向調査を主に行っている。②③の活動について下記に詳述する。

3. 定年退職後のシビルエンジニアへのインタビュー活動

当小委員会では、定年退職後も生き生きと活動しているシビルエンジニアの方に、これまでの職歴や生き立ち、行動・考え方の変化などに関するインタビュー調査を実施し、現役世代が定年退職後に輝いているためには何が必要かを知る手がかりを得ることを目的に、「シニアに学ぶ 退職後の輝き方」というタイトルで委員会ホームページに公開している²⁾。これまでの執筆件数は合計23件となっており、官公庁、事業者、民間、学界や、各地域で活躍される方にも幅広くインタビュー活動を行ってきた。今後、本委員会では、これらのインタビュー記事の分析を行い、現役技術者に必要なスキル等について考察する予定である。

3. シビルエンジニアの定年退職後の雇用及び活動に関する実態・意向調査

当小委員会では、2017年にシビルエンジニアの定年退職後の活動実態及び活動意向に関して、企業及び個人を対象としたアンケート調査を実施した。この調査は、2012年度に実施したアンケート調査³⁾、2007年に土木学会と運輸政策研究機構が共同実施した実態調査⁴⁾（以下、2007年調査）と設問が共通化されており、雇用情勢・事業環境による影響を10年前、5年前の状況と比較検討することも目的としている。2007年度調査時点では、「団塊の世代」が一斉に定年退職を迎える、いわゆる「2007年問題」が起きる懸念から調査を行った。2012年度調査時点は、団塊世代が65歳を迎え、実質上離職する時期という問題意識から調査を行った。今回は、2013年に高年齢者雇用安定法の改正があり、希望者全員が65歳まで就労できるようになったことや、東京オリンピックやリニア中央新幹線などの大型プロジェクトを抱え、土木界全体が活況を呈している現況を踏まえ、5年前との状況の変化等について考察する目的で調査を実施した。

企業向けアンケート調査では、120社より回答を得られた。定年退職後の再雇用率（＝再雇用者数÷定年退職者×100）（図1）については、ここ数年は70%を超える比率で推移しており、再雇用制度は企業に定着して

キーワード 土木学会、シビルエンジニア、土木技術者

連絡先: 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-17-4 山口ビル 4F 大成・東急共同企業体 TEL: 03-5778-3221

いることが確認できる。図2は回答企業の年齢階層別の技術職員数を示しているが、企業に所属する土木技術者の年齢分布は、5年経過し高齢化が進んでいることが見て取れる。また、多くの企業は、「定年退職後の技術者は、年収は下がるが仕事内容は変わらない」と回答しており、シニア技術者のモチベーション向上方策については、数年前からは改善がみられるものの、今も課題点が多いものと考えられる。

個人向けアンケート調査では、3151名より回答を得られた。回答者は、建設業、官庁・独立行政法人、コンサルタントなどである。図3は定年前に就労している方を対象に定年退職後に就業を継続する理由を回答したものである。就労を継続する理由の最も多い回答は、「収入のため」であり、2012年度調査と同傾向となっている。また、シニア技術者が働いてほしい理由(図4)として、「従来通り戦力として働いてほしい」という回答が2012年調査と比べて増加している。土木界全体で繁忙度が増し、担い手の確保が課題となる中で、シニアエンジニアに引き続き活躍してほしいという声が多いのではないかと考察される。

これらの調査結果は、速報版として当小委員会ホームページで公表している。詳細な結果については、今後引き続き考察予定である。

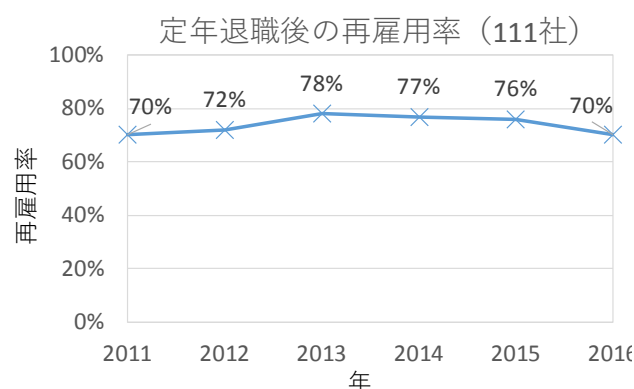


図1 定年退職後の再雇用率

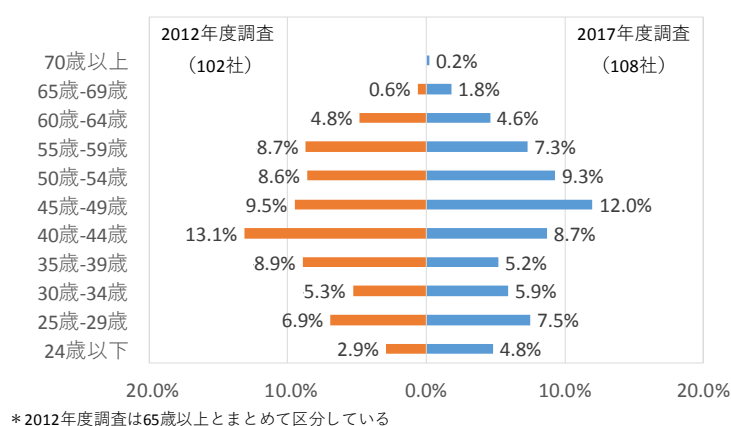


図2 技術職の年齢階層別職員数

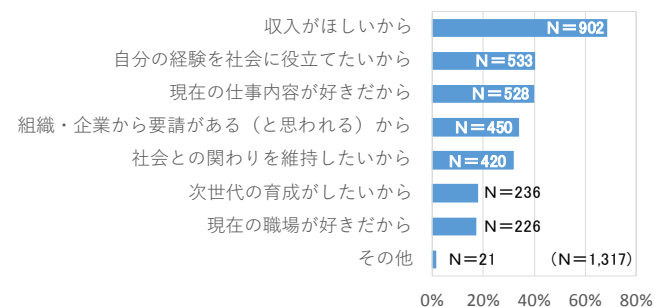


図3 現在の組織・企業で就労を続けたい理由

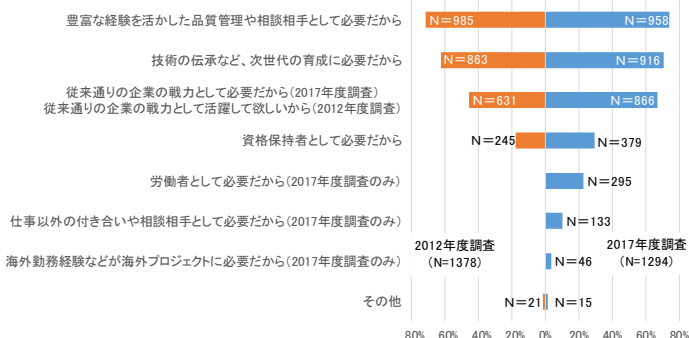


図4 シニア技術者が働いてほしい理由

4. まとめ

本稿では、成熟したシビルエンジニア活性化小委員会の活動について概説した。インタビュー活動やアンケート調査を通じて、シニア技術者の活躍の実態や課題点を把握し、現役世代が定年退職後も活躍できる機会を増やせるような活動を今後も継続予定である。委員会では、Facebook ページも開設しているので、広く活動内容等の情報を発信していく予定である。(https://www.facebook.com/sejukucivil/)

参考文献

- 1) 内閣府：平成29年版高齢社会白書，日経印刷，2017。
- 2) 成熟したシビルエンジニア活性化小委員会ホームページ，<http://committees.jsce.or.jp/education05/>
- 3) 日比野，加藤，角田：シビルエンジニアの定年退職後の活動に関する意向と実態，土木学会論文集H, Vol. 71, No. 1, pp. 58-69, 2015。
- 4) 土木学会：定年退職後の団塊世代，土木学会誌, Vol. 92, pp. 22-24, 2007。